慈明院寺報十二月号

本心は水、妄心は氷

ある禅問答「虎の首に鈴が懸けてある。誰かこれをとってやる者はいないか？」師匠の問いに一人の弟子が即答した。「それはその鈴を懸けた者がとってやるのでしょう。」虎は人の悩み・欲望を象徴し、鈴は人の心とされる。悩みや欲望という虎に、鈴という自分の心を懸けたのは自分自身鈴を外すのも自分自身である。

虎の法話をもうひとつ、将軍・徳川家光に朝鮮から虎が献上されてきた。家光は披露の席で剣術師範・柳生宗矩に「檻の中に入ってみろ。」と命令した。宗矩は心得たとばかりに檻に入り、刀を構えて虎を気迫で威圧した。すると虎は宗矩に恐れをなして、顔を背けておびえてしまった。

これを見ていた禅僧・沢庵和尚「柳生殿もまだまだ。」と誰も頼みもしないに虎の檻に入ってしまった。虎はおびえて殺気だっている。ところが沢庵和尚がゆっくりと近づくと、虎は頭をなでさせ目を細めている。これを見て驚いた柳生宗矩は沢庵和尚に師事し、その教えに従って座禅に励んだと云う。

少し出来すぎた話だが、実際に沢庵和尚から柳生宗矩に与えた書物が存在しその書名を『不動智神妙録』という。その中に次の様な文章がある。

「本心と申すは、一所に留らず、全身全体に広ごりたる心にて候、妄心は何ぞ思いつめて一所に固り候心・・中略・・・本心は水の如く一所に留らず、妄心は氷の如く」と説いた。心がとらわれる事への戒めを説いた言葉であり、それが剣術にも通じる沢庵和尚の教えであった。

「正月の水行の水は冷たかろな。」と本心は水、妄心は氷と自らに言い聞かせて、正月の準備にかかる。来年は寅年、トラ（虎）ブルに負けず、心は水の如く自由にありたいと思う。

住職　合掌

新年のご案内　初大黒天　護摩祈願法会

正月元旦、恒例の「令和四年　初大黒天　護摩祈願法会」を左記日時にて奉行致します。皆様のご参拝をお待ちしております。（詳しくは別紙参照）

一番座　一月一日　午前0時より（大晦日の夜中　十二時　より）

二番座　一月一日　午後二時より（正月元旦のお昼　二時　より）

＊古いお札・お守り等、当日お持ち下さい。後日　焼供養致します。

＊紅白もち、縁起物黒豆・かち栗のお菓子をお接待致します。

（来年）令和四年の年忌について

一周忌	令和	三	年　逝去
三回忌	令和	二	年　〃
七回忌	平成二十八年		〃
十三回忌	同	二十二年	〃
十七回忌	同	十八年	〃
二十三回忌	同	十二年	〃
二十五回忌	同	十	年　〃
二十七回忌	同	八	年　〃
三十三回忌	同	二	年　〃
三十七回忌	昭和六十一年		〃
五十回忌	同	四十八年	〃
七十回忌	同	二十八年	〃
百回忌	大正	十二年	〃

来年 令和四年に年忌を迎えられる仏様の亡くなられた年の一覧です。参考にして頂き、法事の希望などございましたら、電話でご連絡下さいませ。

年忌の法事はご命日より前に行う場合が多いですが、必ず前でなければならないという訳でもありません。命日を過ぎて、ご法事をなさっても大丈夫ですし、都合の良い日にちでご供養して頂ければと思います。

＊（昭和六十四年）は（平成元年）、（平成三十一年）は（令和元年）と同年。

慈明院（〒八一一-一一三一　福岡市早良区大字西二三四一-二〇）
TEL（〇九二）八〇四-四五七〇　FAX（〇九二）八〇四-四六〇五
住職・吉住大慈　携帯電話〇九〇-（五二八一）-七四九四